（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	なごみの家　放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月7日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	14名	（回答者数）	16名
○従業者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和6年11月7日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	５名	（回答者数）	５名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	・個々の取り組みがスキルアップ出来るように、内容を入れ替えや飽きないようなグッツを考え提供している。 ・視覚支援や構造化が必要な方への支援を取り入れる。	・卒業後の必要な習得が何か、生活介護、就労継続B型事業所が併設している為、参考や交流が出きる。
2	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められている環境になっている。	・個別に応じクールダウンや自閉症の方への聴覚過敏の配慮が出きるスペースの確保が出来ている。	・活動部屋をパーテーションで区切りパーソナルスペースを確保し、クッキングやイベントを使用。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援終了後にその日の行われた支援の振り返りが行うことが出来ていない。	・支援終了後は、児童を送る職員や掃除時間、職員の退勤者もいるため全員で共有する事ができない。	・翌日には、子どもが来所する前に時間をつくり、ゆっくりと振り返りを行っている。
2	・職員配置は適切であるか。	・運営指定配置ではクリアしているが、職員の休みや男性職員がいない事で心配ではある。	・広報誌や求人での呼びかけを行っている。 ・居る人材でのスキルアップし、マンツーマン対応を減らす又は、環境整備し二次障害を防ぐ支援を目指す。
3	・放課後児童クラブとの交流や障がいがない子どもとの活動がない。	・障害特性が強い方で、賑やかな場所環境が苦手とする。 ・安全面の配慮が必要。 ・感染症への配慮	・法人内の保育園へ協力を願いながら計画して行きます。 ・外食やお買い物、作品展、日帰り旅行へ出掛け、地域社会への参加は行っている。